

平成 30 年度 高齢者支え合いコミュニティ支援事業団体

| | | | |
|---------|---------|-----------------|-----------------------------------|
| 組織名 | 原釜町内会 | 代 表 | 会長 <small>くまがい しゅうじ</small> 熊谷 秀治 |
| 地域（市町村） | 相双（相馬市） | 加入世帯数 （所属人数） | 140 世帯（320 名） |

（1）町内会の特徴

東日本大震災の発生により甚大な被害を受けた当地区は、震災から 6 年を経て北と南に分かれていた町内会が合併して地域コミュニティを継続している。

震災以降より高齢化が進んだため、コミュニケーションを図れる機会を町内会として数多く作り、少しでも住民の不安の解消を図っていきたい。

（2）事業実施背景

町内にある「津神社」を中心に 1 月の初詣からはじまり、4 月の例大祭では震災前から続く伝統の神楽や剣舞などを以前と変わらず継続し奉納をしている。

11 月の新嘗祭まで郷土の文化を大切に継承しながら町内会活動を行っている。

これらの行事を今後の将来に向けても大切に継承しながら継続していきたい。

（3）本年度事業実施内容と今後の方向性

震災を経験した地域だからこそ、緊急時に地域で対応できるような住民意識としたいというのが目的で実施された「講習会及び芋煮会」では、自宅を出発する時点から「地域の避難経路・避難場所」等を意識しつつ会場に集合してもらい、救命処置訓練等を行った。また、炊き出し訓練を兼ねた芋煮を行って町内の親交を深める良い機会となった。地域の伝統を途切れさせることなく町内会の力をもって継続し、さらなる地域コミュニケーションを深めていきたい。

<地区の文化をこれからに向けて>

町内会行事の一つに、10 月の防災防犯講習会及び芋煮会がある。震災を深く経験した地域だからこそ、緊急時に対応できるような住民意識としたいというのがその狙いである。当日は、「避難経路は？避難場所は？」を意識してもらいながら会場に集まり、AED を使った救命処置訓練、毛布で作った担架による人命救助訓練などを行った。また、炊き出し訓練も兼ねた芋煮を行って町内の親交を深める機会となり、町内の約 1/3 が集まった事業となった。様々な経験を経て、大切な文化が未来に向けてつがなく続いていくよう努めていきたいという会長の言葉が印象的であった。

①10月14日に実施された「防災防犯講習会及び芋煮会」では、130名ほどの町民の参加となる大きな事業となった。



②芋煮会では、子供も高齢者も一同に集まり、顔と顔を突き合わせて、飲んで食べて楽しい時間となった。



③会長の熊谷秀治さんは「大変な部分もありますが、地域の役に立って嬉しい気持ちも大きいです」と話されていた。

